

戦後80年 記憶を語り継ぎ、平和と命の大切さをつなぐ。

多久の戦禍と遺族の声

第二次世界大戦の終戦から80年。

戦争の記憶が少しずつ遠ざかる今も、
平和の尊さを語り継ぐ人たちがいます。
静かに、確かに積み重ねられてきたその歩みに、

今こそ耳を傾けてみませんか？
あなたも、記憶を未来へつなぐ、大切な1人です。

戦争の影と今を見つめて

戦時中の日本では、戦地に向かった若者や空襲におびえながら暮らした人々の姿が全国各地にあり、多久も例外ではありませんでした。

『多久市史』によると、当時の東多久村で268人、南多久村で177人、多久村で167人、西多久村で111人、北多久村で346人の、あわせて1069人ものが戦没。軍隊への動員数は南多久村で736世帯から754人が動員されたとの記録が残されています。
また、村ではなぎなたや空襲を想定した防火訓練が行われたほか、在郷軍人会が住民を教化・

統制。戦争は、全ての人の暮らしのそばにありました。

終戦を迎えると、家族を失った遺族たちは深い悲しみの中でも手を取り合って各町毎に慰霊し、平和を願って活動。その思いは、現在まで脈々と受け継がれてきました。

長い年月を経た今もなお、世界には戦時下で暮らす人々がいます。過去を知ることが、平和の意味を改めて問い直すこと。節目の年にあたる今、同時に思いを馳せ、誰もが平和を享受できる未来を考えてみませんか？たしかに平和希求する心を育むために。



多久市郷土資料館より
お知らせ

戦後80年記念企画展

戦地へ送るふるさと
～「郷土勇士慰問写真集
郷土のおもかげ」にみる
戦時下の多久～



北多久村国民学校神社参拝

家族と離れて軍務に就く人を励ます慰問写真帳のうち、現存するものを紹介する企画展です。入場無料。ぜひ足をお運びください。

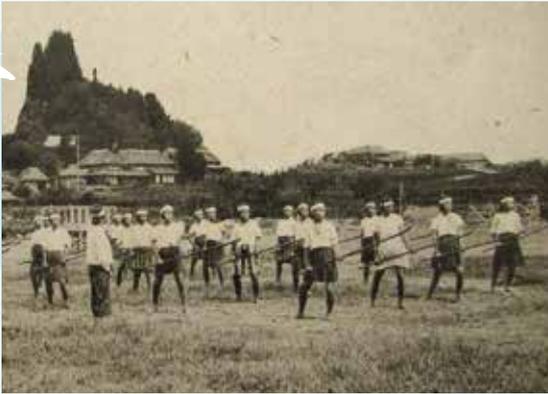
【会期】9月15日(月・祝)まで

※休館日は除く

【場所】多久市郷土資料館



仁位所地区



国民学校女生徒なぎなた錬成